



金子新聞販売選挙特報

令和元年6月30日執行 即日開票
発行責任者 金子真也

紫波町議会議員選挙(定数18人 立候補者19人) ○印の数字は当選回数、地区名は居住行政区

当 1,315票 戸塚美穂 47 無現^②古館地区

当 1,250票 武田平八 67 無現^⑨日詰地区
前々回 1,005票・その前 788票

当 1,212票 藤原恵子 66 公現^⑥赤石地区
前々回 1,150票・その前 960票

当 1,160票 及川ひとみ 55 共現^③赤沢地区
前々回 1,067票

当 1,018票 熊谷育子 62 無現^②志和地区

当 994票 浅沼有朋 60 無新^①水分地区

当 953票 北條喜久男 70 無現^④志和地区
前々回 930票・その前 920票

当 840票 作山秀一 62 無現^③彦部地区
前々回 973票

当 796票 細川久 68 無現^②長岡地区
前々回 514票

当 796票 箱崎勝之 74 無現^③赤石地区
前々回 881票

当 791票 細川恵一 64 共現^⑤古館地区
前々回 752票・その前 840票

当 740票 阿部美佳子 59 無現^②彦部地区
前々回 833票

当 676票 根水康博 63 無現^②佐比内地区

当 645票 北條聡 65 無新^①赤石地区
前々回 210票

当 625票 高橋敬子 57 幸新^①古館地区
前々回 680票

当 591票 佐々木純子 55 無現^②赤石地区
前々回 781票

当 586票 藤原修一 67 無現^③水分地区
前々回 736票

当 305票 阿部秀一 75 無新^①古館地区
前々回 166票

次 165票 佐々木賢一 56 無現^①古館地区
前々回 218票

有権者数 27,607人、投票総数 15,643票、投票率 56.66%、有効投票 15,465票(内、7票分が按分点数)、無効投票 178票、不受理・持ち帰り 0票

投票所別投票数と投票率

投票所	有権者数	投票者数	棄権者数	投票率	投票所	有権者数	投票者数	棄権者数	投票率		
中央公民館	男	2,427	1,185	1,242	48.83%	彦部小学校	男	409	316	93	77.26%
	女	2,839	1,398	1,441	49.24%		女	449	358	91	79.73%
	計	5,266	2,583	2,683	49.05%		計	858	674	184	78.55%
古館公民館 ふれあいホール	男	3,497	1,635	1,862	46.75%	星山小学校	男	355	237	118	66.76%
	女	3,840	1,928	1,912	50.21%		女	391	271	120	69.31%
	計	7,337	3,563	3,774	48.56%		計	746	508	238	68.10%
水分公民館	男	723	516	207	71.37%	佐比内公民館	男	413	299	114	72.40%
	女	825	618	207	74.91%		女	454	304	150	66.96%
	計	1,548	1,134	414	73.26%		計	867	603	264	69.55%
上平沢小学校	男	740	475	265	64.19%	赤沢公民館	男	490	282	208	57.55%
	女	870	527	343	60.57%		女	500	270	230	54.00%
	計	1,610	1,002	608	62.24%		計	990	552	438	55.76%
片寄小学校	男	773	568	205	73.48%	長岡公民館	男	588	377	211	64.12%
	女	812	609	203	75.00%		女	648	432	216	66.67%
	計	1,585	1,177	408	74.26%		計	1,236	809	427	65.45%
赤石公民館	男	2,621	1,403	1,218	53.53%	計	男	13,036	7,293	5,743	55.95%
	女	2,943	1,635	1,308	55.56%		女	14,571	8,350	6,221	57.31%
	計	5,564	3,038	2,526	54.60%		計	27,607	15,643	11,964	56.66%

前回 (H27. 6.28) 無投票
前々回 (H23. 6.26) の投票率 68.20%
その前 (H19. 6.24) の投票率 72.99%

※誠に勝手ではありますが、「金子新聞販売選挙特報」は、本年の本号を持って「無料新聞折込配布サービス」を終了させていただきます。全国新聞販売店でも弊社だけの付加価値サービスを通じて地域民度向上の担い手として努めて参りましたが、スピーディーで情報過多の現代において1952年(昭和27年)から67年に亘り発行して参りました付加価値サービスの使命は十分果たすことが出来たと鑑みます。今後は時代の潮流に求められる新たなサービスを開発し地域民度向上に貢献して参りたいと考えております。弊社より新聞をご購読の皆様が、弊社独自サービスによって少しでも豊かに感じていただけたなら幸いです。